

目次

はじめに	iv
ここ最近のカタカナ語事情	vi
ここ最近のトピック別新語例	xiv
凡例	xix
本文	1

「よくわかる意味と使い方」

アイデンティティー	9	ダイバーシティー	431
イデオロギー	61	タスク	439
インセンティブ	71	タブレット	447
インテリジェンス	77	ディスクロージャー	473
インフラ	81	ドメスティック	511
インフルエンサー	83	ドローン	529
エビデンス	111	バイアス	569
エンゲージメント	117	バッファー	593
オルタナティブ	145	パラダイム	605
カーボン	153	フィジカル	655
ガジェット	159	プロパー	715
カタルシス	163	プロバガンダ	717
カテゴリー	167	ベネフィット	731
ガバナンス	169	マネージメント	789
ガラパゴス	175	ミッション	803
クール	203	ユニバーサル	839
クラスター	211	リソース	873
コンセプト	269	リテラシー	877
コンセンサス	271	リベンジ	885
コンプライアンス	279	レガシー	901
サステナブル	293	レジェンド	903
シュール	333	レジュメ	905
スキーム	353	CSR	965
スマート	389	LGBT	1021
ソーシャル	413	NPO	1037
ソリューション	423	SDGs	1063

はじめに

5版刊行にあたって

私たちの社会や生活に変化が生じるとき、またそれに応じて新しい言葉や意味(新語義・新用法)が生まれます。そして現在にあつては、そのほとんどがカタカナで表記される語として現れてきます。

特に、この数年はコロナ禍という未曾有の事態に関連して、多くの新語が出現しました。コロナ禍のみならず、格段に進歩したAIなど、情報通信技術(ICT)の飛躍的な拡大、国際情勢の不安定化と「グローバルサウス」の影響力の増大、また深刻さを増す気候変動への対処の一環としての「グリーントランスメーション(GX)」等々。「オンライン」「リモート」など、従来よく見聞きしていた語も、「オンライン飲み会」「リモート授業」など、新たな使い方が定着しています。

今回の改訂でもまた多くの新語を追加し、削除した語と差し引きで前版より700語増の総項目数約14,500を収録、また、新しい試みとして、巻頭に置いた「ここ最近のトピック別新語例」では、今回の版で追加した語のいくつかをトピック別に例示しました。この索引を眺めると、この数年の時代のありようそのものが見えてくるように感じられないでしょうか。今回も全面的にご協力いただいた、もり・ひろし氏の巻頭コラム「ここ最近のカタカナ語事情」と合わせて読むことで、カタカナ語が表象する今の社会・世界、そして時代そのものの姿が理解できると思います。それぞれのカタカナ語を深く掘り下げる「よくわかる意味と使い方」にも「エンゲージメント」「フィジカル」の2語を追加いたしました。

本書が読者の方々のカタカナ語の理解の助けとなることを願ってやみません。

2023年7月
三省堂編修所

刊行の辞(初版「はじめに」)

日本語の文字の歴史にあつて、外国からの新知識を取り入れ、また観念的な思考を表現する道具の役割は、そのはじまりの時から長きにわ

たつて、漢字が担ってきました。

近世以降、西洋からの文化と知識の移入が続きますが、それらの知識・概念は漢字語への翻訳によって定着して行きました。明治になつても翻訳の営為は続き、漢字は日本語における文字の主役としての役割を果たし続けました。

しかしながら、近年では、情報量の増大や流通の加速から、外来の知識・概念をいち早く取り入れるために、カタカナが盛んに使用されるようになりました。

また一方で、昨今、外来語に限らず、従来漢字で書かれていた語も、カタカナで表記されることが多くなり、賛否両論あるものの、日本語表現の幅は大きく広がっているように見えます。

私たちはまさに膨大な「カタカナ語」の中で日々の生活を送っていると言っても過言ではないでしょう。

新しく取り入れられ、流通する知識や概念が、カタカナ語として現われてくるということは、漢字と並んでカタカナがその存在感をいっそう増しているということだと思えます。

そういう意味では、現代のカタカナ語辞典は、最も敏感に最新の知識に向き合う新知識辞典であり、日々生み出される時事用語・流行語辞典であるべきでしょう。

その一方で、カタカナ語の氾濫が、情報の円滑な流通を妨げているという批判もあります。2006年の国立国語研究所「外来語」委員会による『「外来語」言い換え提案』は、増大し流通するカタカナ語が適切に説明されなければならない、という世の中の切実な要求を反映していると思います。

本書では、見やすい大きな文字で、最新の情報を含むカタカナ語を約1万3,000語収録し、どなたでもカタカナ語の適切な理解に至れるように意を尽くしました。

本書が読者の皆様のお役に立てることを願ってやみません。

2014年8月
三省堂編修所

ここ最近のカタカナ語事情

もり・ひろし

●変異株で知るギリシャ文字

2020年(令和2)、WHO(世界保健機関)は新型コロナウイルス感染症 COVID-19 のパンデミックを宣言。本書はその渦中であつた2021年に第4版を、宣言から3年あまり経つた2023年にこの度の第5版を刊行することになりました。

このうち第4版では、感染集団を意味するクラスターや、感染防止の手法であるソーシャルディスタンスなど、当時急速に話題になった言葉を取り上げています。しかし残念なことにパンデミックは長期化。今回第5版でも引き続きコロナ関連の医療用語を取り上げるようになりました。例えば2回目のワクチン接種のあとに感染してしまうブレイクスルー感染、3回目以降のワクチンを追加接種するブースター接種、新型コロナウイルス感染症の後遺症を意味するロングコビッド、インフルエンザとの同時感染を意味するフルロナなどの言葉を取り上げています。ギリシャ文字による変異株の命名も注目されました。前版の刊行時にはアルファ(α)株、ベータ(β)株、ガンマ(γ)株、デルタ(δ)株が話題でしたが、このたび第5版の編集時にはオミクロン(\omicron)株が話題でした。

●遠隔と対面のハイブリッド

コロナ禍の長期化は、働き方にも大きな影響を与えました。パンデミックの当初こそリモートワークなどの「職場に出向かない働き方」が注目されましたが、コロナ禍の長期化に伴い「リモートと職場勤務を混ぜた働き方」も注目されるようになりました。その好例がハイブリッドワークという言葉。これはリモートワークとオフィスワークを適宜使い分ける働き方を意味します。ここでまず注目したいのはオフィスワークという言葉。従来は比喩的に「事務仕事」を意味する言葉でしたが、ここ最近では「物理的に事務所に行つて行う仕事」も表すようになっていきました。もうひとつ注目したいのはハイブリッドワークに登場するハイブリッド(混合・混成)という言葉。例えばハイブリッドエンジンの場合、エンジンとモーターの混成を意味します。いっぽうハイブリッドワーク

の場合は、オンラインとオフラインの混成を意味するわけです。ほかにもハイブリッド開催やハイブリッドイベントなどの言葉でも登場、いずれも遠隔と対面の両方で、イベントや会議などを開く方式を意味します。これもコロナ禍の長期化がもたらした言葉の変化の一つです。

●長引くコロナ禍が生んだ新ビジネス

ハイブリッド化で対面での働き方も復活したとはいえ、引き続きリモートに対するニーズも残っています。この状況は、様々な業界において新種の概念を生み出しました。例えばコンピューターセキュリティーの業界では、ゼロトラスト(直訳で「信頼なし」の意)と呼ばれる概念が急速に普及しています。これはネット内外を隔てる壁でセキュリティー的な防御を行うのではなく、すべての通信を信頼の置けないものとして確認を行う方式を意味します。リモートワークの普及によって社外で仕事をする人が増えたために、このような概念も広まりました。いっぽう映画やドラマなどの映像製作の業界では、バーチャルプロダクションと呼ばれる新しい制作技術が急速に普及しています。これはおおまかに言えば、巨大なLEDディスプレイに背景を映し出して、その前で俳優が演技する撮影方法のこと。コロナ禍により海外などでのロケーション撮影が難しくなったため、この技術が注目されるようになりました。このほかりモート化の進んだ生活様式を背景として小売業界で勃興したクイックコマース(注文後数十分で日用品・食料品などが届く仕組み)などもあります。

●娯楽のトレンドも「非接触」に

コロナ禍は、仕事のみならず消費の姿も大きく変えました。ほかの人に近づかない「非接触」を志向するあらゆる娯楽が好まれるようになったのです。その傾向は家の「中と外」の両方で現れています。このうち家の「中」では、コロナ禍の初期からビデオチャットなどを通じて楽しむオンライン飲み会が流行。また自宅での娯楽として動画配信サービスも人気となり、それに伴い、ストーリーミングデバイス(テレビに接続して動画配信やゲームなどの機能を加える機器)やコネクテッドティービー(ネット接続可能なテレビ)などへの注目度も高まりました。いっぽう家の「外」では、利用者どうしが対面せずすむサービスが人気で

ここ最近のトピック別新語例

● コロナ後の社会

アマビエ……………40
 オンライン飲み会……………147
 クイックコマース……………201
 シェアキッチン……………309
 ゼロコロナ……………409
 ダークストア……………424
 デジタル敗戦……………485
 バーチャル背景……………560
 プライベートサウナ……………675
 ホカンス……………749
 モクテル……………824
 ラグイ……………848
 ワークスーツ……………930
 CO₂センサー……………961

● 国際政治・国際社会

グローバルサウス……………233
 ファイブアイズ……………644
 AUKUS……………946
 CIPS……………957
 FOIP……………987
 GSOMIA……………995
 IPEF……………1008
 MAGA……………1023
 RCEP協定……………1054
 USMCA……………1080
 2+2……………1093

● 経済・経営・ビジネス

アクセラレーター……………15

カオスマップ……………156
 コアシーピーアイ……………246
 シード……………307
 デザインシンキング……………482
 ユニコーン……………837
 BAT……………947
 CDO……………955
 CMO……………959
 CPO……………962
 CSO……………963
 FP&A……………988
 GRC……………995
 JTC……………1017
 K字……………1017
 MVV……………1030
 ROIC……………1057
 TMD……………1073

● 金融・決済

イーサリアム……………56
 カードレス……………150
 クリプト……………224
 グロース……………232
 スタンダード……………363
 スマートコントラクト……………387
 タッチ決済……………441
 テーパリング……………478
 デジタル給与……………483
 ナンバーレス……………538
 プライム……………676
 BNPL……………949

CBDC……………952
 IFA……………1005
 NFT……………1032
 P2E……………1051
 SPAC……………1066

● マーケティング・広告・小売

アドテクノロジー……………27
 アドフラウド……………28
 インサイト……………67
 カスタマージャーニー……………158
 ギフティング……………187
 クリエーターエコノミー……………221
 クリックアンドコレクト……………223
 ステルス値上げ……………368
 スローレジ……………397
 ダークパターン……………424
 タイパ……………429
 ダイマ……………430
 マイクロインフルエンサー……………771
 リセールバリュー……………871
 BOPIS……………949
 MEO……………1025
 No.1調査……………1034
 P2C……………1051
 YMYL……………1090

● テクノロジー・開発


アルテミス計画……………46
 スーパーシティ……………347
 ディープテック……………468
 デジタル田園都市国家構想……………485
 ビッグテック……………631

● 情報通信技術 (ICT)

インスタンス……………68
 オーディオグラス……………124
 オンラインサロン……………147
 コネクテッドTV(テレビ)……………257
 コンテナ……………272
 サイドロード……………286
 サイバーフィジカル……………287
 サイバーレジリエンス……………288
 スマートディスプレイ……………388
 スマートホーム……………388
 スマートロック……………390
 スリープテック……………394
 ゼロトラスト……………410
 ダッシュボード……………441
 チューナーレステレビ……………461
 ディスプレーオーディオ……………472
 テレグラム……………497
 パームリジェクション……………565
 パスキー……………583
 フィルター……………656
 プロンプト……………720
 マイクロサービス……………772
 マルチパス……………793
 メタパス……………814
 モデレーター……………827
 ローカル5G(5G)……………915
 ワイヤレスディスプレイ……………933
 ChatGPT……………957
 FIDO……………986
 IoB……………1006
 LLM……………1022
 NTN……………1035
 RCS……………1054

● ● ● ア ● ● ●

アーカイバー【archiver】データファイルの管理保存のためのコンピューターソフトウェア。特に、大きなファイルを圧縮するためのソフトウェアをいうことが多い。

アーカイブ【archive】▷古文書、公文書館の意。①大規模な記録や資料のコレクション。デジタルデータ化しての保存と世界的な相互利用が図られている。②デジタル化されたデータを圧縮する技術や方法。より少ない情報量でデータの転送・保存を行うことができる。③ライブ配信映像の録画。「一視聴」保存記録／記録保存館

アーガイル【argyle】2色以上の菱形の格子の上に斜め格子を重ねた(編物の)柄。アーガイルチェック。▷スコットランドの地名から。

アーキテクチャー【architecture】①建築。建築学。建築様式。②構造。構成。組織。③コンピューターを機能面から見たときの構成方式。記憶装置のアドレス方式、入出力装置の構成方式などをさす。


アーキテクト【architect】建築家。建築士。設計者。計画立案

者。製作者。

アーク【arc】アーク放電の際、両極間に発生する光の弧。

アーケード【arcade】①連続したアーチを列柱で支える構造物。また、列柱に囲まれ、アーチ形の天井をもった空間。②商店街などの通路上部に、屋根をつけた施設。③⇨アーケードゲーム

アーケードゲーム【arcade game】ゲームセンターなどに設置されているゲーム機の総称。テレビゲーム・ピンボール・クレーンゲーム・メダルゲームなど。業務用ゲーム。

アーシー【earthy】 泥臭い。土の匂いがするような。骨太の。

アース【earth】電気機器と地面とを銅線などの導体でつなぐこと。また、その導体。機器の電位が異常に上昇することを防いだり、雑音を低減したりする。接地。▷地球・大地の意。

アースカラー【earth color】褐色などの、大地を思わせる色。

アーチ【arch】①弓形に積み上げた石や煉瓦(煉瓦)などによって上部の荷重を支える構造。窓・門・橋桁(桁)などにみられる。②祝賀会・運動会などで仮設される門。上部を弓形にし、常緑樹の葉

でおおう。③円弧。弓形。④野球で、ホーム-ラン。

アーチェリー【archery】①西洋式の弓術。また、それに用いる弓。洋弓。②洋弓を用いるスポーツ。標的をねらい射って、得点を争う。ターゲット競技やフィールド競技などの種目がある。

アーティキュレーション【articulation】①発音の明瞭度。歯切れ。②音楽の演奏において、各音の切り方、あるいは次の音との続け方のこと。演奏上、フレーズ内部の分節を明確にする表現手段として重要。レガート・テヌート・スタッカートなど。

アールティクル【article】①新聞や雑誌の記事・論説。②法令や契約の条項。

アールティスティック【artistic】芸術的なさま。優雅なさま。趣のあること。

アールティスティック スイミング【artistic swimming】**新**音楽に合わせて水中でさまざまな演技を行い、その美しさや技術を競う競技。ソロ(一人)・デュエット(二人)・チーム(団体)などの種目がある。旧称、シンクロナイズド-スイミング(シンクロ)。2017年より国際水泳連盟(FINA)が現名称に変更。AS。

アールティスト【artist】芸術家。特に、美術家・演奏家をいうことが多い。▷アーティストとも。

アールティチョーク【artichoke】キク科の多年草。地中海沿岸原産。夏、アザミに似た大きな紫色の頭花をつける。若い花の花托(かた)と萼(が)の肉質部を食用にする。

アールティフィシャル【artificial】人工的であるさま。人為的。不自然。→ナチュラル①

アールト【art】①芸術。美術。②「アールト紙」の略。印刷用紙の一種。鉱物性の白色顔料と接着剤などを混ぜた塗料を塗り、光沢機にかけて滑らかで緻密な紙面にした洋紙。再現性がよく、写真版印刷などに広く用いる。

アールト ディレクター【art director】①映画・演劇などで、衣装・舞台装置・照明などを指導する人。美術監督。②広告製作で、デザイン・コピーなどを総合的に企画・決定し、製作する人。

アールト フラワー【和製 art+flower】生花を模して丁寧につくられた造花。

アールト メイク【和製 art+make】専用の針を用いて、眉・目の周辺・唇などの表皮下0.01ミリメートルの部分色素を染める美容法。効果は数年ほど持続し、洗っても落ちない。アールト-メイク。パーマネント-メークアップ。▷英語では permanent make-up、permanent cosmetics。

アールト ロック【art rock】1960

年代後半に登場した、芸術的要素が強調されたロック音楽のスタイル。

アールトワーク【artwork】①芸術作品。アールト-ピース、アールト-オブジェクトとも。②音楽のパッケージなどに表示する図版。

アールバン【urban】都市の。都会の。都会風の。

アールバン スポーツ【urban sports】**新**都市型スポーツ。大規模な競技施設を必要とせず、気軽に楽しめるスポーツをいう。3x3(スズキ)・BMX・インラインスケート・スケートボード・スポーツクライミング・パルクール・ブレイクダンス(ブレイキン)など。

アールビトラージ【arbitrage】市場間の価格差を利用して利益をあげる経済行為。その結果として両市場の価格差は縮小する。裁定取引。

アールミー【army】軍隊。特に、陸軍。

アールミー ナイフ【army knife】小刀のほかに、はさみ・栓抜き・缶切り・ワイン-オープナーなどの機能を持つ部品を組み込んで、一つにまとめた折り畳み式ナイフ。

アールミールック【army look】軍隊・軍服風の服装やスタイル。ミリタリー-ルックともいう。

アールム【arm】腕。また、本体から腕状に出ている部分。

アールム カバー【arm cover】日

焼けを防ぐなどの目的で、手首あたりから腕全体を覆う筒状の衣類。

アールム バンド【armband】①ワイシャツやブラウスの袖(そで)をたくし上げるための、装飾性のあるバンド。腕バンド。また、腕章。②情報機器(音楽プレーヤーや携帯電話など)を携帯するために腕につける、ホルダー付きのバンド。

アールム レスリング【arm wrestling】腕相撲(うでず)。

アールメン【amen】キリスト教徒が祈禱(きと)・賛美歌・信条告白の終わりに唱える言葉。アールメン。▷ヘブライ語で、まことに、たしかに、の意。

アールモンド【almond】バラ科の落葉高木。アジア西部の原産とされる。全体がモモに似ているが果実は平たく、果肉が薄い。仁(ご)に苦みのあるものは薬用、ないものは食用にする。アールモンド。アールモンドー。巴旦杏(ばたんぎょう)。▷「扁桃」とも書く。

アールモンド プードル【和製 英 almond+フツ pou dre】アールモンドの粉末。菓子などの材料にする。アールモンド-パウダー。アールモンド-プードル。

アールリー【early】早い。初期の。**アールリー アクセス**【early access】**新**開発中のソフトウェアを、正式版の公開よりも前に提供

すること。または、ユーザーがそのサービスを利用すること。開発中のゲームを有償で提供する場合など。早期アクセス。

アーリーアダプター 【early adopter】イノベーター理論の用語。新たに現れた革新的商品やサービスなどを比較的早い段階で採用・受容する人々。イノベーター理論の5つの顧客層のうち、イノベーター(革新的採用者)の次に受容する人々。常識的な価値観をもつ一方、新しい価値観や様式にも敏感だとされる。早期採用者。初期採用者。初期少数採用者。→アーリーマジョリティー・レイトマジョリティー・ラガード

アーリーアメリカン 【Early American】アメリカの英領植民地時代・開拓時代の建築や家具などの様式。

アーリーマジョリティー 【early majority】イノベーター理論の用語。新たに現れた革新的商品やサービスなどを比較的追隨的に採用・受容する人々。イノベーター理論の5つの顧客層のうち、アーリーアダプター(初期採用者)の次に受容する人々。新しい価値観や様式の受容に慎重とされる。前期追隨者。初期多数採用者。→アーリーアダプター・レイトマジョリティー・ラガード

アーリーリタイア 【early retirement】早期の引退。

アーリオオーリオ 【^アaglio olio】ニンニクをオリーブオイルに入れ、弱火で加熱して香りとも風味を移したもの。パスタなどに用いられる。▷アーリオはニンニク、オーリオは油の意。

アール 曲線や曲面。またその曲がり方の程度。「一を付ける(=角をとって丸くする)」「一がきつい(=半径が小さく急に曲がっている)」▷半径を表す記号がrであることから

アール 【^アare】メートル法の面積の単位。1アールは100m²。約30.25坪。約1畝(≒)。記号a

アールグレイ 【Earl Gray】ベルガモット油で風味づけをした紅茶の商品名。独特の香りがあり、アイスティーなどにされる。▷イギリスのグレイ伯爵が紹介したことから。アールは伯爵の意。

アールセップ 【RCEP】
新 ⇨RCEP協定 ▷Regional Comprehensive Economic Partnership。

アールデコ 【^アart déco】1910年代から30年代にかけて、パリを中心に西欧で栄えた装飾様式。それ以前のアールヌーボーが曲線を主とするのに対し、現代都市生活に適した実用的で単純・直線的なデザインを特徴とする。1925年様式ともいう。▷

arts décoratifs の略。装飾美術の意。

アールヌーボー 【^アart nouveau】19世紀末から20世紀初頭、ヨーロッパ各国の建築・工芸・絵画などの諸芸術に流行した様式。モチーフを主に植物の形態に借り、曲線・曲面を用いて装飾的・図案的に表現した点に特徴がある。▷新芸術の意。

アールブリュット 【^アart brut】理性が関与しない芸術作品の意。芸術家ではなく、幼児や精神障害者が自分自身のためにつくった表現物の総称。原生芸術。▷フランスの芸術家デュビュッフェ(Jean Dubuffet [1901~1985])の用語。→サバン症候群

アイ 【eye】目。また、目の形をしたもの。目の機能をもつもの。他の語と複合して用いられる。

アイアール 【IR】⇨IR

アイアン 【iron】①鉄。②ゴルフで、ボールをたたくヘッドの部分が金属製のクラブ。→ウッド

アイダ 【Aida】ベルディ作曲のオペラ。4幕。エジプトにとらわれたエチオピア王女アイダとエジプトの将軍ラダメスとの悲恋物語。スエズ運河の開通を記念して1871年カイロで初演。

アイオーエス 【iOS】アップル社が提供する、スマートデバイス用の基本ソフト。商標名。

アイギス 【^{アイ}aigis】ゼウスとアテナの持ち物の一つ。アテナのそれは、肩から羽織られる小さい肩掛けもしくは胸当てに似、普通多数の蛇の房で縁取られ、うろこ状の地の中央にゴルゴンの首をもつ。

アイキャン 【ICAN】**新** ⇨ICAN

アイグロス 【eye gloss】**新** 験(験)に塗り、光沢と色味を与える化粧品。

アイコンニック 【iconic】象徴的な。「ブランドの一なモチーフをあしらう」

アイコン 【icon】①コンピューターに与えるコマンドを記号や図形で画面上に表示したもの。その部分をマウスなどで指定・操作してコマンドを実行させる。→GUI ②象徴。③ある分野の代表としてたええられる人や物。

アイコンタクト 【eye contact】①相手の目を見たり、視線を交わすこと。意思や態度などを相手の目を見ることによって伝達しようとする。②サッカーで、連携した動きを行うために、選手どうしが目と目を合わせて意思の疎通を図ること。

アイサイト 【eyesight】視力。視覚。視界。視野。

アイシー 【icy】**新** 氷のような。冷たい。

アイシャドー 【eye shadow】

目元に陰影をつけるために、まぶたに塗る化粧品。

アイシング【icing】①粉砂糖・バター・卵白などを泡立て、菓子類の表面にかぶせるもの。糖衣。②着氷。③アイス・ホッケーで、レッドラインの手前から打ったパックが直接相手のゴールラインを越えること。アイシングザパック。④筋肉を氷で冷やすこと。

アイスキューブ【ice cube】**新**①製氷機・冷凍庫でつくった四角い氷。角氷。②冷やして水の代わりに用いる、ステンレスやプラスチックなどの立方体。③南極点付近(アムンゼンスコット基地)の地下にある国際共同ニュートリノ観測施設。2011年観測開始。▷icecube neutrino observatory。

アイススレッジレース【Ice sledge racing】下肢障害者が小型そり(スレッジ)に座った状態で氷上を滑り、そのスピードを競うレース。両手にスティックを持ち、氷をかいて移動する。アイススレッジスピードレース。

アイスダンス【ice dance】フィギュアスケートの一部門。男女一組で、音楽に合わせて氷上を踊るように滑走し技術や芸術性を競う。

アイスバーン【^{ドイツ}Eisbahn】雪面が凍結して氷のようになった

場所。特に、凍結により摩擦係数が小さくなった路面。

アイスバイン【^{ドイツ}Eisbein】ドイツ料理の一。塩漬けにした豚の脚を煮込んだもの。

アイスプラント【ice plant】ハマミズナ科の多肉植物。葉の表面についている氷の粒のような細胞に塩分が含まれる。食用に栽培する。▷葉の表面が凍ったようにみえることから。

アイスブレイカー【icebreaker】①氷を砕くためのもの。砕氷器や砕氷船。②研修やセミナーなど初対面の人が集まる場で、互いの緊張をほぐすために行うプログラム。自己紹介や簡単なゲームなど。アイスブレイク。アイスブレイキング。→ファシリテーション

アイゼン 登山靴の底につける、とがった爪をもつ滑りどめの金具。クランボン。▷シュタイクアイゼン(^{ドイツ}Steigeisen)の略。

アイソスタシー【isostasy】地殻が、密度のより大きいマントルの上に浮かんでいる状態にある、という現象のこと。海水に浮かぶ氷山のように、高い山の地殻は地下深くまで厚く、海底の地殻は薄くなっている。

アイソタイプ【isotype】①(International System of Typographic Picture Education)視覚言語。絵文字言語。地図・統計

図表・標識などに用いられる図形や記号。②同種の個体中に共通に存在し、構造が異なる抗原。

アイソトープ【isotope】同一の元素に属し(すなわち、原子番号が等しく)、質量数が異なる原子。同位体。同位元素。

アイソトニック【isotonic】等張。等張性。

アイソメトリックス【isometrics】重い物を動かそうとするときに、関節などの角度を一定にしたまま筋肉を一定時間緊張させて筋力を高めるトレーニング法。

アイソレーション【isolation】①分離。隔離。孤立。②電気的な絶縁。また、その尺度(多くはデシベル)。③バスケットボールやサッカーなどで一対一の攻撃を仕掛ける際、その攻防を孤立化させて攻撃選手の突破力を活かす戦術。④ダンスやパントマイムで、体の各部分を独立して動かすこと。⑤工事やメンテナンスで、作業対象となる設備・機器を稼働中のものから分離すること。

アイデアソン**新** アイディアを構想するイベント。短時間(1日ないし数日以内)で集中的に、テーマとなるアイデア(課題の解決法や新ビジネスなど)を構想する。グループごとに構想を競い合う形式が多い。→ハッカソン▷アイデア(idea)とマラソン(mar-

athon)の合成。

アイディア【idea】①思いつき。着想。アイデア。②哲学で、観念。理念。→イデア

アイティー【IT】⇔IT

アイディーカード【ID card】⇔IDカード

アイテム【item】①商品の品目。ファッションで、服の種類。②ビデオゲームの中で利用する武器や道具。▷事項、項目の意。

アイデンティティー【identity】①物がそれ自身に対し同じであって、一個の物として存在すること。自己同一性。同一性。個性。②人間学・心理学で、人が時や場面を越えて一個の人格として存在し、自己を自己として確信する自我の統一をもっていること。自我同一性。主体性。同一性。③コンピューターで、一致。識別。㊦独自性/自己認識 ⇨よくわかる「アイデンティティー」の意味と使い方(p.9)

アイデンティファイ【identify】同一の人、または物であることを確認すること。同定。

アイトラッキング【eye tracking】眼球の動きを追跡すること。またその技術。視線がどこに向かっているかなどを分析する。

アイドリング【idling】機械・自動車などのエンジンに、負荷をかけず低速で空転させること。暖機

運転。

アイドリングストップ【和製 idling+stop】荷物の積み降ろしや停止信号での停車時などに自動車のエンジンを停止させること。㊦ 停車時エンジン停止

アイドル【idle】名詞に付いて、「活動していない」「遊んでいる」などの意を表す。

アイドル【idol】①偶像。崇拜される人や物。②人気者。

アイドルタイム【idle time】①無作業時間。遊休時間。生産施設が稼働せずに労働力が空費されている時間。②流通のなかでの、物資の待機時間。

アイパッド【iPad】アメリカのアップル社が開発・製造するタブレット端末。2010年発売開始。商標名。

アイバンク【eye bank】角膜の移植を仲介する機関。眼球提供者の登録、眼球の摘出・保存などを行う。角膜銀行。

アイビー【ivy】①蔦(つた)類の総称。②ウコギ科の常緑つる性木本。ヨーロッパ原産。庭園などに栽培され、斑(しま)入りなど変種が多い。

アイフォン【iPhone】アメリカのアップル社が開発・製造するスマートフォン。2007年発売開始。商標名。

アイブロー【eyebrow】①まゆ。まゆ毛。②アイブローペンシル

の略。鉛筆状のまゆ墨。▷アイブローとも。

アイボリー【ivory】①象牙(ぞう)。(註)。②象牙色。アイボリーホワイト。③光沢のある淡いクリーム色の厚手の洋紙。

アイマスク【eye mask】飛行機の機内などで、明るさを避けて、眠るために使う目かくし。

アイマックス【IMAX】⇨IMAX

アイライナー【eyeliner】アイラインを入れるための化粧品。鉛筆状のものと液状のものがある。

アイラッシュカーラー【eyelash curler】まつげを上向きにカールさせる道具。ビューラー(商標名)。

アイランド【island】島。

アイランドキッチン【island kitchen】壁から離れたところに独立した作業台を設置した台所。作業台に流し台やコンロを配置することもある。▷島のように見えることから。

アイリス【iris】①アヤメ科アヤメ属の植物の総称。また、園芸種のアヤメ属。②カメラのレンズの絞り。虹彩(にじ)絞り。③虹彩。眼球の角膜と水晶体の間にある輪状の薄い膜。中央の孔が瞳孔(どう)で、虹彩中の平滑筋の伸縮によって瞳孔の開きを調節して、眼球内に入る光の量を調節

よくわかる「アイデンティティー」の意味と使い方

詳しい意味は？

アイデンティティー(identity)は、広義には、「同一性」「個性」「国・民族・組織などある特定集団への帰属意識」「特定のある人・ものであること」などの意味で用いられます。コンピューター関係で用いられるときは、「一致」「識別」のことです。

学術用語としての定義は、哲学分野では、「ものがそれ自身に対して同じであって、一個のものとして存在すること」です。心理学・社会学・人間学などでは、「人が時や場面を越えて一個の人格として存在し、自己を自己として確信する自我の統一を持っていること」と説明され、「本質的自己規定」をさします。

どんな経緯でこの語を使うように？

哲学分野では概念規定の用語として用いられていましたが、アメリカの精神分析医 E. H. エリクソン(1902～1994)が唱えた「アイデンティティー」の概念は、心理学のみならず社会学や精神医学などの学術領域で広く用いられ、さらに一般にも浸透しました。日本では、この精神分析学・心理学の用語として入ってきて、アメリカと同様に一種の流行語のように広まりました。

実際の使われ方は？

【アイデンティティークライシス(identity crisis)】「自己認識の危機」のことです。例えば、「成長過程でアイデンティティークライシスに直面する時期」、あるいは「グローバル時代におけるアイデンティティークライシス」のように使われます。

【ブランドアイデンティティー(brand identity)／コーポレートアイデンティティー(corporate identity)】日本では、和製カタカナ語で「ブランドイメージ」と言われていたものに近い概念です。一方、コーポレートアイデンティティーは、「CI」と略されることが多く、ロゴマークや企業イメージ統一戦略のように思われがちですが、漢字で表現すると正確には「企業理念」となります。